

話し合い法座について

～話し合い法座とは、人と人との温もりを、心と心のつながりを確かめ合う中に、自分を再発見できる場です～

◆話し合い法座

みなさんは今までご法話を聞いたことはありますか？ 聞いたことがある人の中で、わからないことや質問してみたいことはなかったですか？ 連研での法座とは、僧侶が一方的に話をし、参加者が一方的に聞くという従来のスタイルとは異なり、聞いたことやわからないことを、日常生活の疑問や悩みを通して確認し合う【話し合い法座】です。

しかし、一般的なQ&Aではありません。連研で「聞き・話す」ということを繰り返しながら、日常の生活を通して、仏教、浄土真宗のみ教えに問うていくことに大きな意味があります。

ここに集まっている一人ひとは、それぞれに辛いことや悲しいこと、嬉しいことや喜ばしいことなど、さまざまな経験（体験）をし、胸の奥に抱えています。ものごとの捉え方や考え方も異なります。それぞれの違いを認め合いながら話し合うことは、そのまま聞き合うということにもなります。お互いに心を開いて話し合える、聞き合えることは、きっと素晴らしい時間を共にすることになります。心の奥底にあるものを、お互いに引き出しあいながら、今日の【であい】を深めてゆく。そんな空間が話し合い法座です。

通常では、まず連研スタッフより、話し合いの糸口となる問題提起がなされます。問題提起をうけて話し合いを始めます。その後、話し合った内容の報告をいただき連研スタッフによるまとめの法話があります。その一つひとつは別々のものではなく、すべてを含めて連研であることをご理解ください。

◆話し合い法座の進め方と注意したい（心がけたい）こと

- ・まず司会者（話し合いの進行役）と報告者を決めましょう。時間には制約がありますので、司会者は全員が話をできるように配慮をします。班

の人は、自分の話が長くならないように心がけましょう。報告者は話し合われる内容を箇条書き程度に筆記します。班としての意見をまとめる必要はありません。

- ・自己紹介とみんなの声が聞こえるような距離感も大切な要素です。そして、みんなに聞き取りやすいように話すことも大切です。
- ・沈黙の時間があってもそれは決して悪いことではありません。みんなの話を聞きながら自分の思いを確認することも大切です。沈黙の時間があってもみなさんの心は間違いなく動いているのですから。
- ・連研スタッフも同座しますがともに聞かせていただく一人です。話し合いがうまく進むように方向修正する場合がありますが、一問一答にならないように心がけましょう。

◆◆話し合い法座の報告

- ・報告者は話し合いの内容を報告します。まとめる必要はありませんので、話し合った内容をそのままお話してください。また、話し合いの時間の終わりに、報告する内容を班内で確認しましょう。
- ・他の班でどのようなお話がされたのかもしっかりと聞きましょう。

◆◆まとめの法話

- ・みなさんの話し合いの報告をうけて連研スタッフよりまとめの法話があります。しかし一問一答ではありませんし、答えを出すことでもありません。問題提起と話し合いに沿ったみなさんへの問いかけとしてお聞き取りください。そして日常の生活の中で再び自分に問いかけてみてください。【み教えを聞く】といういとなみから、【み教えに聞く】という人生がひらかれてくるでしょう。

◆◆全体を通して

- ・連研は参加者のみなさんと連研スタッフ全員で創りあげるものです。みなさんの要望や感想も気軽に連研スタッフにお聞かせください。ともに法を聞き、友に法を語り、朋と法に問い続けてまいりましょう。